

# 2019.2.10 北九州切手のつどい2019

## 記念講演「デジタル機器を活用した郵趣活動」 資料

日本郵趣協会鹿児島支部

谷之口 勇

はじめに：●この講演資料は、一個人としての見解を述べた物です。

私が公私で所属している組織、団体とは無関係です。あらかじめご了承ください。

●講演中に実演も含めて行いますが、スペースの関係上この資料の中ではデジタル機器の操作の基本となる、大まかな考え方を述べるだけにしておきます。

そのため、文字中心の資料になる事をお許してください。

### 0. 生活のみならず郵趣活動にも取り入れるデジタル機器

携帯電話（スマホも）、パソコン（タブレットも）といった、デジタル機器。皆さんの生活の中には浸透して、中には手放せないという方もいらっしゃるかと思います。

ところで、皆さんの郵趣活動ではデジタル機器を活用されていますか？

郵趣活動でデジタル機器を使うシーンを想定してみましたので、ご自身の使用状況と照らし合わせてみてください。

行動	具体的な行為	機材	サービス・アプリ
調べる・知る	ニュースや情報の検索	PC、スマホ、タブレット	Webサイト、アプリ（環境次第）
入手	郵政や切手商のサイトから購入 ネットオークションの利用	PC、スマホ、タブレット	Webサイト、アプリ（環境次第）
郵趣品の作成	自作のオリジナル郵趣品の作成	PC、スマホ、プリンター	ワープロソフト、ドローソフト アプリ（環境次第）
整理	アルバムリーフの作成	PC、プリンター	ワープロソフト、ドローソフト
管理	入手した郵趣品の管理		
	・画像での管理	PC、スマホ	パソコン、スマホの標準機能で対応可能
	・ソフトを通じた管理	PC、スマホ	アプリ
	入手したい郵趣品の管理		
	・ワープロソフト等で一覧表 ・ソフトを通じた管理	PC、スマホ、プリンター PC、スマホ	アプリ アプリ
交わる・発信する	メールでの連絡 SNSでの交流	PC、スマホ、タブレット	Webサイト、アプリ（環境次第）
	手紙や印刷物の作成	PC、プリンター (スマホ、タブレット)	ワープロソフト

※私が個人的に想定した事例なので、漏れが生じているかもしれません。

## 1. デジタル機器のメリット・デメリットを再認識する

「パソコンやスマホ、タブレットを用いた紙媒体の管理」という視点から、使用した時のメリットとデメリットを箇条書きしておきます。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>紙媒体では到底持ち出せない分量のデータを持ち出す事が可能。</li> <li>例：自分のコレクションの画像や書籍</li> <li>アプリを用いて情報の整理をすれば、検索が容易。</li> <li>アプリを用いなくても、工夫次第では情報確認を容易にすることも。</li> <li>保存をしっかりとっておけば、機材を紛失してもデータは復帰可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データを閲覧するために、機材が必要。</li> <li>機材によっては起動に時間が掛かる。</li> <li>機材の取り扱いを覚える必要がある。</li> <li>機材は故障や陳腐化で買い換えの必要有。</li> <li>データを作成する手間が必要。</li> <li>データの消失の可能性有（対策必要です）</li> </ul>

「使い慣れれば」と前置きする必要がありますが、デジタル機器を使いこなす事によって情報を管理しつつ、効率的な収集をはじめとした郵趣活動を送る事ができると思います。

一番の大きなメリットは、データをスマホやタブレットに入れて気軽に眺める事です。公共交通機関での移動や自宅でも天候が悪くて切手を触りたくない時でも、自分のコレクションや電子書籍を液晶画面でチェックする事が可能です。

## 2. 作ったデータは保管する

アルバムリーフをはじめとする、作ったデータはどのように取り扱っていますか？

可能な限り、作ったデータは些細な物でも必ず保存しておく事をお勧めします。

例えば、アルバムリーフの場合は作成日をリーフ上に（自分が分かるように）記載した上で、ファイル名も作成日しておきます。そのようにすれば、後で（数年後も有り得ます）入手した郵趣品を追加したい時に作成したリーフのデータを呼び出しやすくなります。

保存場所はお任せ致しますが、ひとつのフォルダー内に保存しておいた方が探しやすいです。

記憶媒体（特にパソコン本体のハードディスク）の容量を心配はあまり必要ありません。リーフの中に画像を入れない限りは微々たる容量ですし、新しい機材になればなるほど記憶媒体の容量が増大化しているので、どんどんデータは保管した方が賢明です。

※記憶媒体がフラッシュメモリのみ搭載のパソコンは空き容量に気を付ける必要があります。

## 3. アルバムリーフや郵趣品は可能な限り画像にする

（紙などからの）コピーができるプリンターをお持ちであれば、機材の追加購入する必要はありません。現在では家庭向けの9割以上がスキャナー付きの複合機が選ばれています。

お持ちのプリンターがスキャナー付きの機種であれば、郵趣品の画像化はすぐ実践できます。プリンターを購入した際、添付しているCDを利用してインストールしていれば、スキャナーの原稿を読み取るソフトも一緒にインストールされているはずなので、パソコンの中に入っているプログラムを確認してみてください。

原稿の読み取り解像度は最低200dpiを設定した方が良いです（個人的には300dpiで取り込むようにしています）。読み取り解像度が高くなれば綺麗になる反面、1枚の画像データの容量が大きくなるので、事前にテストしてスキャンされた画像と1枚当たりの画像容量を確認して決めれば良いと思います。

**常に画像化して便利と感じるのは、郵趣品の画像が必要な時にすぐに準備できる事です。**

#### 4. 可能であればデータベース化、最低でもデータの管理を

所持している切手を厳密に管理するのであれば、データベース化をお勧めします。その際、ソフトの扱い方を覚える必要や、設定するといった手間が生じます。その手間の大きな成果として、自分の所持しているコレクションの把握がとても容易になります。

データベースを作るまでのパソコン操作が難しいと感じた場合や、面倒だと感じる場合は、最低限アルバムリーフの画像データをテーマ毎にまとめてフォルダー単位で保管する事をお勧めします。フォルダー単位の管理だと、比較的探したい物が見つかりやすくなると思います。

保存先は、大容量のデータを保管できるハードディスクをお勧めします。パソコン本体のハードディスクでも（容量の空きがあれば）問題ありません。既に容量不足を生じていれば、外付けのタイプを追加する必要はあります。

因みに、日本の大手メーカーから家電量販店等で販売されているノートパソコンだと 10 年近く前の機種でも 500GB の容量、最近の機種では 1TB（約 1000GB）の容量のハードディスクが搭載されています。仮に、200dpi で取り込んだアルバムリーフ 1 枚の画像を保存すると、500GB のハードディスクに 150 万枚以上収められます（実際はプログラムや他のデータもあるのでもっと少なくなります）。ここ 2~3 年の間、パソコンは S S D をはじめとしたフラッシュメモリを採用した機種が増えているので、買い換えの際は要注意です。

#### 5. コレクションのデータはパソコンだけではなくスマホ・タブレットへ

スキャナーからの画像の取り込みは、スマホ・タブレットでも可能なものの、操作性やデータ保管の容易さで多くの方はパソコンを使用すると思います。

コレクションの画像はパソコン内に入れておくだけでは無く、スマホやタブレットにも入れておくと、外出先のみならず自宅内でもすきま時間で自分のコレクションをチェックしたり、気分転換の材料にする事ができます。スマホやタブレットは基本的にスタンバイ状態（電源が入っていて、バッテリーの最も消耗が少ない状態）で使っている事が多いので電源ボタンを押せば、すぐ起動できるため気軽に閲覧ができます。（最近のパソコンは高速起動できる機種もあります）

大量のデータをスマホ・タブレットへ入れる場合、全体のデータ容量を確認する必要があります。S D カードも容量がありますし（大容量のタイプを選択）、S D カードが入られない本体にデータを保存する機種では、保存領域のデータ不足が端末の動作に影響する危険性があります。※スマホ・タブレットへのデータ転送はパソコンとの組み合わせで変わるので、お持ちの機材をご確認して実践してください。

#### 6. デジタル化が進む出版物

出版物をパソコン上で作成する事もあって、デジタルデータでの公開が進んでいます。

一般的な例では、著作権上問題がある書籍や雑誌は専用サイトや閲覧アプリ経由での公開が多く（有料の登録制が多いです）、逆に公表したい印刷物（例：組織の広報誌、行政の申請書類）については閲覧が容易な P D F データで公開されています。

郵趣の世界で見ると、有償無償の内容を問わず書籍や印刷物のデータ提供は P D F で行っている事が多いと実感しています。また、P D F データで会報を提供している郵趣団体や、出品リストを提供しているオークション主催者が増えている傾向があります。

ダウンロード可能な P D F データは積極的にダウンロードしておく事をお勧めします。実際の印刷物と違って、物理的にスペースを圧迫される事は無いのは嬉しいところです。

**「データは紙より場所を取らない」というデジタル情報の一番のメリットを活用しましょう。**

## 7. デジタル機器は、「習うより慣れる」

最後は、パソコンやスマホ・タブレットの操作に疎い方へお伝えしたい事です。

操作を聞かれて教える際、教える側が操作しているのを紙にメモを一生懸命取る人もいらっしゃいますが、聞きながら実際に自分が納得するまで操作を繰り返すと覚えるまでが速くなると感じます。そして、一回操作を覚えていただけでは忘れてしまいますので、同じ操作を繰り返し実施してみると以外と忘れません。

車に乗っている方だと、車の運転と同じように感じませんか？ 車の運転と同様、パソコンの操作も、頭では無く体に覚えた方が楽に身につくかと思います。

デジタル機器は高価な物になって財布に響くものの、ご自身が使いたい目的が叶えば元は取れたのだと思って頂ければと思います。

**使い倒すのが、デジタル機器の一番良い使い方です。使わずに埃を被るのは勿体ないです。**

本編終わり

## 残りの記述は、講演ではあまり触れません。

### A. データのバックアップは必ず、頻繁に

デジタル機器で使用しているデータ保存機器（ハードディスク、フラッシュメモリ）は、必ずしも完璧ではありません。「物である限り壊れる事がある」という前提での取り扱いが重要です。具体的な例では、ハードディスクは小さな円盤が1分間に5,000回転以上しているので読み書き中に振動を与えれると故障の原因になったり、フラッシュメモリも数千回～数万回の読み書きの繰り返しで耐用限度を迎えます（それ以前に壊れる事も多い）。

データの消失を防ぐために、同じデータをふたつの機器に保管する「バックアップ」を行う事を強くお勧めします。余程の事が無い限り、同時に壊れる事は起きないはずで

また、最近ではクラウドサービス（インターネット上の保管スペースを提供）の有料オプションで1TB以上のデータ保管も可能になっていますので、興味がある方は導入を検討する価値はあります。サービスによっては、有料アプリの使用も可能になるものもあります。

個人的な話ですが、10年以上前にデータをバックアップのためにハードディスクを購入し接続した直後に、データが入っていたハードディスクが壊れてバックアップできなかったという情けなくとも痛い経験をしました。消えたデータで一番痛かったのは結婚前後にデジカメで撮った写真でした（家族からは色々と言われる事に…）。

### B. 無料のパソコン用アプリも意外と役立つ（英語が分かりかつパソコンの知識がある方向け）

無料で使用できるパソコン用アプリには、有料アプリ並みに使えたり、かゆいところに手が届くような便利な物があります。その中から、数点紹介致します。

● Libre Office…Microsoft Office 互換ソフト。図形描画ソフトの「Draw」がリーフ作成向き。

<https://www.libreoffice.org/>（英語のサイト・）

● GIMP…画像編集ソフト。老舗の画像処理ソフト並みの編集機能を有する。

<https://www.gimp.org/>（英語のサイト）

● BunBackup…バックアップソフト。外付けハードディスクやメモリカードにコピーできます。

<http://nagatsuki.la.coocan.jp/bunbackup/index.htm>（日本語のサイト）

以上